

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901761		
法人名	有限会社あらた		
事業所名	グループホームあらた		
所在地	旭川市豊岡8条1丁目3番20号		
自己評価作成日	令和3年 3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和3年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの庭では花の鑑賞や野菜の成長・収穫の喜びを感じられる様に家庭菜園を実施。その他季節折々の外出行事や、個々の買い物支援など出来るだけ多くの外出の機会を設けている。
居室に関しては、これまでの住まい道具を持ち込み、今までの生活空間を出来るだけ再現し、出来る事の維持、自立への意欲を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあらたは、平成16年に住宅街の中に開設されました。地域の中で利用者が、集団生活とのバランスを取りながら入居前からの暮らし方ができるよう、開設以来一貫した理念を実践しています。職員は、基本理念と共に掲示している独自に定めた不適切ケアの基準を守り、利用者と職員が笑顔で過ごすことができるようにしています。コロナ禍において、面会の制限が長く続きましたが、中でもスマホを活用し利用者と家族が顔を見ながら話せるように支援したり、事業所便りや運営推進会議の議事録などで事業所の様子を伝えるようにしています。
夜勤専従職員の配置や、子育てしながらでも職員が働きやすい職場作りに取り組んでいます。風通しが良く、コロナ禍の制限のある日常の中で利用者にとって必要な支援について優先順位を話し合い、限りある人生の思い出作りなどを工夫して行っています。事業所では職員の人間力を育て、利用者主体のケアを目指し身体拘束の排除や人権尊重の研修にも取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・フロア・休憩室掲示板に掲げ、常に留め介護業務に従事している。	理念は開設当時に作成し、運営法人が変わっても受け継がれています。入居者が主体的な決定をし共同生活の範囲内で習慣等の継続ができることを目指しています。職員には、支援を業務として捉えず、利用者を人として受け止め、共同生活を送れるようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍、近所の散歩時の挨拶や、ごみ拾い・雪かきのお手伝い程度の交流となっていました。	コロナ禍のため、近隣との交流もままなりませんでしたが、事業所前の雪かきなどを利用者と共にしたり、コンビニやスーパーには出掛けています。事業所として町内会に加入し、廃品回収に協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、町内会の方々に参加して頂き、事業所の取組や参加した研修の発表、法改正について意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、会議の内容を朝礼等で報告し、入居者への還元に努めている。ご家族に関しては、請求書に議事録を同封し報告とさせて頂く。	コロナ禍のため書面会議も取り入れています。開催する場合は、参加案内と議案を送付しています。役所の出席は毎回あり、議事録も毎回家族に送っています。市から、会議の議題や進め方の助言や敬老会の助言を受けています。	運営推進会議の参加者は、今後も参加者の地域生活の充実や安心につながるよう、固定観念に捕らわれず外部への呼びかけを行い、多様な参加者と意見交換を行うことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市職員の参加。地域包括支援センター主催の研修へ参加する等、圏域内での協力関係は構築している。	コロナ禍で電話やメールでの情報共有が主になっています。生活保護課のケースワーカーの訪問も感染予防を行い実施しています。センサーマットの使用について市役所に相談し、利用者の自立を促すための福祉用具としての視点を活用することなどの助言を受けています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議において、町内住民参加による検討委員会の設置。定期的な内部研修や、従業員休憩所への掲示を行い、身体拘束ゼロの実践に取り組んでいる。	身体拘束の実施がないかを委員会で確認しています。身体拘束適正化委員会の開催は役所に相談し、適切に実施しています。利用者の手術後の支援の際など、家族の協力も得ながら身体拘束を行わないように支援しています。地域包括支援センターより、DVDの配布を受け、職員が視聴しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修や、従業員休憩所への掲示、法人役員による不定期監査・指導を実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人実績のある社労士による講義や、外部研修を通じ理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個人情報同意書、契約書、重要事項説明書等、入居前に十分に時間を頂き説明・質疑応答し、納得・了承の上で署名・捺印頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口や意見箱を設置しているが、面会自粛だった為、電話でのやりとりを最低限させて頂く。	玄関に意見箱を設置していますが、投書はありませんでした。家族の面会がなかなか実現しない中、毎月の事業所便りは利用者の写真をまんべんなく掲載し、暮らしぶりを伝えています。家族への電話での連絡や、担当者会議での状況説明を行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議等は設けているが、随時意見交換出来る職場環境にある。	職員からの意見でユニットごとのレクを行っています。朝礼を会議を兼ねて行っており、雇用形態によらず、職員が毎日思ったことが言えるようにしています。管理者との個別面談も定期的に行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者にも協力・負担頂き、介護職員処遇改善加算の取得による給与・昇給体系の整備。資格取得や外部研修参加によるシフト調整の実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力医療機関による指導や、研修機会を設け、研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	圏域内外の研修参加を始め、協力介護保険施設との定期交流、居宅介護支援事業所、福祉用具貸与事業所との連携・勉強会を実施。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に状態や生活歴の把握をし、事前面談・施設見学を実施し、開始時の安心に繋がる取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や、施設見学、その他電話連絡受け体制を整備し、環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴や、事前面談・施設見学時の何気ない会話等からニーズの見極めに努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力の見極めを行い、共同生活をしていける環境づくりをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月ごとのご様子を手紙にて発送、面会自粛だった為、風除室越しの面会とし、関係構築へ努める。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の庭のガーデニング、年賀状作成等今までしてきた事をそのまま続けていける支援に努めている。	隣接する同法人のグループホームとの行き来も自粛となりました。今年は面会や外出が難しかったため、年賀状のやり取りを多く行いました。利用者が情報を得やすいように新聞や雑誌を居間に置いています。家族との面会も、希望によりスマホのビデオ通話などにより支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の理解、性格、生活歴を職員でしっかり共有する事で、個々の繋がり・関わり合いを模索し支え合える支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も介護・医療関係者からの情報提供依頼があれば、ご家族の了承の上で提供。その他相談や訪問があれば対応支援している。 個人情報保護法の観点から施設からの積極的な取組みは行っていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者が随時個別訪問や、日常会話や動作からの報告を受け、カンファレンスの開催。	介護記録は、職員が行った支援よりも、利用者の言葉を中心とした生活の様子を記載しています。記録を書くよりも利用者とは話をすることに力を入れており、職員は朝礼で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族からの聞き取り調査、介護サービス利用者に関しては、了承を頂きこれまでの情報提供を頂く等、職員で共有・把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や朝礼等、個別の情報共有を随時行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、担当者会議、朝礼での共有と、ケアプランの評価をしっかりと行いニーズの把握・作成をしている。	朝礼時に職員より利用者の状況の報告を受け、計画担当が作成しています。短期目標に合わせ、半年ごとに見直しを行っています。職員への介護計画の周知はファイルにも綴り、いつでも見られるようにしています。	介護計画はチームでの作成とまではいいませんが、ユニットにより記録の取り方にばらつきがあるなど、職員への意識付けにも差があります。そのため計画には、職員が理解しやすい目標設定とサービス内容の記載を意識し、職員全員が計画を理解し方向性のある支援に取り組んでいくことが期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、モニタリング評価を参照し、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊、病院の選択、入退院の対応等ニーズに応じられる支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内役員を始め、近隣住民の来訪や交流を図り、安心できる生活支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望通り。 お困りの方へは数か所病院と提携している為、ご紹介することも可能。	往診はありませんが、入居時に希望の医療機関を選び、通院の支援は職員が行っています。薬の変更や体調不良時には家族に連絡しています。看護師が週3回日中勤務と夜勤時に、利用者の日常的な健康状態も把握確認しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護職員を配置。日頃から体調管理し、必要に応じて看護職員と病院間での医療連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院時職員付き添いし、日頃から情報交換を行い、万が一の協力関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	方向性の確認は随時行っており、必要に応じて医師を交えての話し合いの機会も設けている。	重度化の場合は主治医の指示により入院等を検討しています。提携医療機関に入院できますが、利用者の主治医の方針と家族の希望により対応しています。契約時に事業所として方針の説明を行っています。終末期支援のマニュアルはありますが、看取りまで行っていないため、職員研修は実施していません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し、日頃から職員が確認・対応出来る様な体制、シフト調整をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民にも協力して頂き、定期的な訓練や避難路の下見を行う等、協力体制を築いている。	5月と10月に避難訓練を実施し、夜勤者が参加した夜間想定訓練も行っています。管理者が発電機を所有しており、災害時に使用することができます。また、感染症対応の備品は準備していますが、食料や水の備蓄は十分な量とはいえません。	災害時の食糧備蓄について、事業所として必要なものをどのように確保していくかの検討が必要です。また、指定避難所へ避難する場合に備え利用者の受け入れや滞在に際して事前に打ち合わせるなど、地域の社会資源との連携を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年1回の接遇講義を始め、職員の目に付く所へマニュアルを掲示する等、日頃から意識付けし、対応を促している。	職員は、接遇や利用者の尊厳について研修で学んでいます。利用者自身が運営推進会議に出席したり、身寄りがない利用者は保護課に金銭管理の報告をするなど、利用自身の意見を確認し、家族や支援者関係者と協力して利用者支援に当たっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からの信頼関係作りに尽力し、お話頂ける環境、支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個人の希望を尊重し、意向に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や、服装等、ご本人やご家族から自宅での話を聞く等、希望を聞きながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の工夫や、補助具を使用し、自力摂取出来る様に支援している。体の状態に応じて職員と共に準備や片付けを行っている。	食材会社より塩分制限やムース食などの利用者にも対応した食材が届いています。事業所でラーメン専門店や寿司職人が料理をふるまったり、季節ごとの行事食も提供しています。外食には行けませんが、利用者の希望で出前寿司やステーキ、職員の手作りケーキなども提供しています。利用者の調理手伝いは、コロナで中止していますが、片付けなどに参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた大きさや柔らかさへの考慮や好みに応じた水分提供をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った歯ブラシや口腔洗浄液・歯間ブラシの併用など個々に合わせた支援・介助を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常チェック表で排泄パターンの把握をし、一人ひとりに合わせた排泄誘導・介助を行っている	声掛けなどで自分でトイレに行ける利用者が多く、全介助の利用者は2割程度です。夜間の支援方法などは医師とも相談し、利用者が快適に過ごせるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食事、水分量の調整を行い、必要に応じ、医師へ相談し下剤服用支援をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	ご本人様の体調や都合に合わせて調整し、入浴中会話を楽しんだり、希望に沿いながら、満足して頂けるよう支援している	入浴支援は週2回、午前中に行っています。職員と一対一で会話を楽しんでいます。入浴拒否があった場合は無理強いをせず日程をずらすなどの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活リズムを把握し、その時々状況に応じた安眠や休息支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳やお薬説明書を参考に理解・把握に努め、状況に応じ医師の指示・変更時は申し送りや記録で周知を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とすることを活かした役割を任せたり、お菓子作り・出前ランチなど日々の生活内での気分転換支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、通院以外の外出支援や面会、一部行事まで自粛し、ほとんどない状態となる	散歩などは継続していましたが、外出の機会が減ってしまいました。しかし、天気の良い日に玄関前で焼き肉をしたり、お茶を飲むなど、外気に当たる機会を作っています。また、ユニット全員で景勝地にドライブに行き、アトラクションを楽しむなど、思い出作りを行いました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭・通帳はご本人様の了解を得てご家族様・ホームでの管理をしている。買い物や外出時はご本人様に手渡し、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の設置や手紙を出す支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう、毎日の清掃、適度な換気や室温・湿度管理を行い、四季を感じられるような居心地のよい空間作りをしている	共用空間は温湿度管理を行っており、冬季間はバスタオルなどでも加湿しました。掃除は入居者は掃除機や洗濯物たたみなど役割もっています。居間などに入居者と作成した貼り絵や季節感を感じる花を飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファでくつろがれたり、入居者様同士で展示物を見ながら談笑・散歩ができる空間作りをしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物・飾り物、仏壇を置くなど一人ひとりのライフスタイルに合わせ居心地よく過ごせる配慮をしている	クローゼットと防災カーテン、ギャッジアップベッドは備え付けです。テレビや仏壇などを持ち込んでいます。家族の支援で衣服の入れ替えをしたり、電池式のろうそくを使うことで仏壇へのお花や供物を継続しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ネームやトイレなど目立つ大きさでの表示や色合い・位置に配慮したり、安全・安心感を大切に、できる限り自立した生活が送れるよう工夫している		